



## 夢への挑戦！

自信と誇りと感謝を胸に！

小野中学校だより

第 21 号

文責：校長 大河原久宗

2018.1.9.TUE

TEL:72-3355 FAX:72-2829

＜教育目標＞

【夢～自立・友愛・健康】

- ・課題を持ち、進んで学ぶ生徒
- ・互いのよさを認め、高めあう生徒
- ・健康で、心身を鍛える生徒

# 2018

## 平成29年度 3学期始業式！



明けまして、おめでとうございます。子どもたちが、こうして元気に集うことができ、うれしく思います。

冬休みはどうでしたか？「ありがとうございました。」感謝の言葉を心を込めて言うことができましたか？ 3学期も多くの人々に見守られながら過ごすことになります。

感謝の気持ちを素直に表現できる自分を大切にしてください。

さて、2018年の1月2日・3日に行われた「箱根駅伝」は、青山学院大学が10時間57分39秒の大会新記録で、4年連続4度目の総合優勝（往路2位・復路優勝）を果たしました。2002～2005年の駒沢大学以来、史上6校目の4連覇も達成。下馬評では出雲王者の東海大学、全日本王者の神奈川大学との「3強」とされたが、箱根で勝つ強さはどこにあるのか。原監督は、早稲田大学大学院スポーツ科学研究科でスポーツビジネスを学び、過去の練習量やレースタイムをデータ化し、どの時期にどのレベルに達すれば箱根駅伝で優勝できるかを選手に示し、具体性のある強化方法を探っていたそうです。7区の区間記録を16秒更新し、最優秀選手に選ばれた林奎介選手（3年生）は、大学3大駅伝（出雲・全日本・箱根）初出場。伸び悩みマネージャー転身も考えたうえ林選手は、「夏合宿で（練習）消化率80%なら箱根で使えると監督に言われ80%を意識して練習を組んだ。」とのことです。昨年の12月の合宿では連覇を飾ってきたこれまでと同等レベルの設定タイムをクリアし、見事7区に抜擢されました。大会前に、一人でも音程を外したら負けるとし、箱根駅伝の作戦名を「ハーモニーハーモニー」を命名した原監督。全10区間で選手が美しいハーモニーを奏でました。「ハーモニーハーモニー」を「チーム小野」のチーム力アップにも生かしたいです。 【1/4のポータルサイトより】

新しい年の初めにあたり、今よりさらにいい学級・学年・学校だったとだれもがいえるものにするために、もう一步の前進をして一年のまとめをしっかりしてほしいと思います。そのために、日々の生活の中で心がけてほしいことをお話しします。

それは、「他のために何かできないか」考えてほしいのです。自分が困ったり、苦しんでいるとき、助けられ、励まされ、感謝した体験は誰にでもあると思います。集団の中の一人として生活する時、自分のことだけ考えていたのでは、楽しく、充実した学校生活は送れないことも十分わかっているはずです。まず、自分から、他のために何かをすることによって、自分自身が助けられ、自分がここにいることの意味が実感できるのです。学校行事、生徒会活動、部活動、学級・学年活動を中心に、一人ひとりが、「他のために何かができる」時、より楽しい学級や学年、学校になるのです。何かをすることが他の人のためばかりでなく、自分自身のためであることを心にきざんでほしいものです。充実した3学期にしましょう。

3学期の行事のメインは「卒業式」でしょう。3年生にとっても1・2年生にとってもこの1年の中で最高の思い出になるような式にするためにも、「他のために何かできないか」を考えて生活してほしいのです。

3年生にとっては、進学（入試）や就職に向けて忙しい時期かもしれません。忙しい時期だからこそ、心にゆとりをもち、「他のために」と考えることは大切だと思うのです。そんな生徒が通う小野中学校であってほしいです。誰かの笑顔のために頑張る、すてきなことだと思いませんか。そんな心をみんなでもたらすときな学校になるのでしょうか。

今日から始まる52日間（45日間）の3学期、「誰かの笑顔のために」、「他のために何かできないか」の心で生活し、充実したワン（戌）ダフルで活力のある年になることを願っています。



7区で給水員に笑顔を見せる青学の選手(2017)



ゴールするアンカーの橋間選手